

令和7年度第2回熊本市メディカルコントロール協議会

— 議事録（要旨） —

開催日時 令和8年3月17日（火） 18:30～20:00

開催場所 熊本市消防局2階 多目的室

【出席者】

■委員

熊本市医師会	米満 弘一郎	委員
熊本大学病院	入江 弘基	委員
熊本医療センター	渋谷 崇行	委員（議長）
熊本赤十字病院	原富 由香	委員
済生会熊本病院	前原 潤一	委員
熊本地域医療センター	平井 信孝	委員
熊本市民病院	赤坂 威史	委員
熊本ACLS協会	田代 尊久	委員

以上8名

【出席者】

（熊本市側）

健康福祉局			
医療政策課	課長	福永	幸子
消防局			
救急課	課長	丸山	修
	副課長	朝倉	一郎
情報司令課	主幹	岩村	克彦
	班員	本田	公司

■事務局

救急課			
救急管理班	主幹	田村	悟史
	班員	梅田	卓
	班員	田上	翔太
救急指導班	主幹	池松	慎吾
	班員	阿部	毅
	班員	伊藤	陽信
	班員	山口	泰史

令和7年度第2回熊本市メディカルコントロール協議会

(次第)

- 開会
- 救急課長挨拶
- 議題 (要旨)

<p>議題 1 事務局</p> <p>事務局</p> <p>前原委員</p> <p>事務局</p> <p>前原委員</p>	<p>【救急技術指導会の開催について】(資料1)</p> <p>次年度、熊本市MC協議会主催で、救急技術訓練指導会を開催したいと考えている。イメージとしては、ELSTA九州等で行われている総合シミュレーションである。</p> <p>当局の課題は、事後検証会において、事案の検証やプロトコルの確認等を行っているが、現場を想定したようなシミュレーション訓練は、各所が自発的に行っているにとどまっており、定期的な訓練体制が構築できていないところである。</p> <p>そこで、MC協議会のもと、シミュレーションができればと考えている。</p> <p>訓練目的は、局内の活動手順の統一、隊員間の連携体制を強化することに加え、指導会という1つの目標を設定することで、各隊が救急業務の合間、訓練に励むことにより、組織の活性化を図ることである。</p> <p>指導会の形態としては、MC協議会のぶら下がりとして、事後検証会があるが、同様に救急技術指導会を立ち上げたいと考えている。立ち上げに関しては、当局の要綱の改定で可能である。また、技術指導会に参加していただく医師は、事後検証会の検証医の方に併任していただくと考えている。</p> <p>次に指導会開催までのスケジュールであるが、4月から8月の間を、各署での訓練期間とし、その訓練期間に各署から代表隊を選抜していただき、9月に救急技術指導会を開催できればと考えている。また、開催日については、勤務体制が二部制であるため、9月に各1回ずつの開催を考えている。</p> <p>最後に指導会の流れであるが、実施場所は消防局、訓練時間は15分で実施後に検討会を行う。指導会開催1回につき医師2名を招聘し、指導を行っていただく予定である。</p> <p>指導会のイメージとして、動画をご覧ください。</p> <p>(動画視聴)</p> <p>以上のような指導会ができれば考えている。</p> <p>委員から意見等があればお願いします。</p> <p>年1回の開催なのか。</p> <p>年1回である。もちろん、これに向けて各署で予選会のようなものは実施することとなる。</p> <p>順位はつけるのか。</p>
---	---

事務局	想定が一律ではないため、順位はつけないが、優秀な活動隊を決めてもいいのではないかと考えている。
平井委員	CPA にこだわらず、様々な想定を用意するということか。また、高エネルギー外傷といった外因性や感染症に関する想定も用意するということか。
事務局	そのとおりである。
前原委員	動画記録し、各署にフィードバックするのか。
事務局	シミュレーション中は撮影する予定であるが、その後の検討会は、基本的に撮影しない予定である。
前原委員	そうであるならば、イメージトレーニングとして、撮影した動画を各署へ共有した方が良いと思う。
事務局	なお、指導会は職員の見学を可能とする予定であるため、見学者が刺激を受けていただければと期待している。
田代委員	検討会というのは、15分間でシミュレーションを実施したのちのデブリーフィング的な認識で良いか。
事務局	そのとおりである。基本的には、医師からのフィードバックを中心にし、指導救命士のフィードバックに関しては、その後、話す機会がある時にフィードバックできればと考えている。
平井委員	確認であるが、15分でシミュレーションし、次の15分で検討会という認識で良いか。
事務局	そのとおりである。
渋沢議長	各部1回ずつというのは、近い日付で実施する予定か。
事務局	そこは、局内の予定と合わせ、調整する予定である。
渋沢議長	事後検証会の検証医は何名か。
事務局	11名である。当MC協議会委員と兼任の医師もいる。

<p>渋沢議長</p>	<p>その中から4名招聘するというのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>そのとおりである。</p>
<p>田代委員</p>	<p>学習のため、検証医以外の救急医等を見学させることは可能か。</p>
<p>事務局</p>	<p>可能である。</p>
<p>渋沢議長</p>	<p>その他、意見等はないか。</p>
<p>委員</p>	<p>なし。</p>
<p>渋沢議長</p>	<p>それでは、当案で進めるようお願いする。</p>
<p>議題2</p>	<p>【生涯ポイントの改定】（資料2）</p>
<p>事務局</p>	<p>当局は、救命士の生涯学習として、ポイント制度を導入し運用している。また、努力目標として、年間40ポイント取得することとしている。</p> <p>なお、当制度は、これまで症例検討会のWEB開催に伴い、WEB参加へのポイント付与など、時代の変化に応じたポイント制度へ改定、運用してきた。</p> <p>ポイントの改定について、今回上程した経緯であるが、次のような課題等が挙げられたためである。</p> <p>1点目、WEB参加は時代のニーズに沿ってはいるが、対面参加により、医師と直接意見交換することは、意義が大いにあるため、対面参考を促したい。</p> <p>2点目、指導救命士の事後検証会に見合ったポイントの付与である。現在、事後検証会に参加した指導救命士と一般聴講者のポイントが同一であるため、差を設けたい。</p> <p>3点目、上級救命講習指導者とその他の講習指導者とのポイント差がない。現在、上級救命講習と普通救命講習について、主担当者にはポイント差はあるが、その他の指導者にはポイント差がないため、差を設けたい。</p> <p>そこで、資料5ページのとおり、事務局案として提示する。</p> <p>まず、「WEB」と「リモート」という言葉を統一した。</p> <p>次に、各種症例検討会等のポイント改定である。ハイブリット開催の場合、対面参加は4ポイントのままとし、WEB参加を2ポイントから1ポイントとする。完全WEB開催の場合は、2ポイントとする。これに伴い、各種学会・研究会等へのWEB参加についても、対面参加の4分の1である2ポイントとする。</p> <p>次に、事後検証会のポイント改定である。指導救命士、副指導救命士の参加を4ポイントから6ポイントとする。</p> <p>最後に救命講習等指導のポイント改定である。上級救命講習の主担当者以外の指導者について、1ポイントから2ポイントとする。</p> <p>以上、ポイント改定案である。</p>

渋沢議長	委員から意見等があればお願いします。
入江委員	ハイブリット開催の場合で、顔出しせずに聞いているか不明な参加者と、顔出しをし、質問をする参加者とで差はつけられないか。
事務局	WEB参加を開始した当初から、原則顔出しすることと周知しているが、未だに顔出ししていない職員もあり、また、勤務中に一つのパソコンで複数人参加している職員もあり、全て把握するのは困難であるため、差をつけることができないのが現状である。
渋沢議長	取得ポイントは、自己申告なのか。
事務局	自己申告となるが、各署の救急救助班主査が参加名簿と申告ポイントを突合している。
渋沢議長	その他、意見等はないか。
委員	なし。
渋沢議長	それでは、この改定案で進めるようお願いする。

■ その他

■ 閉会